

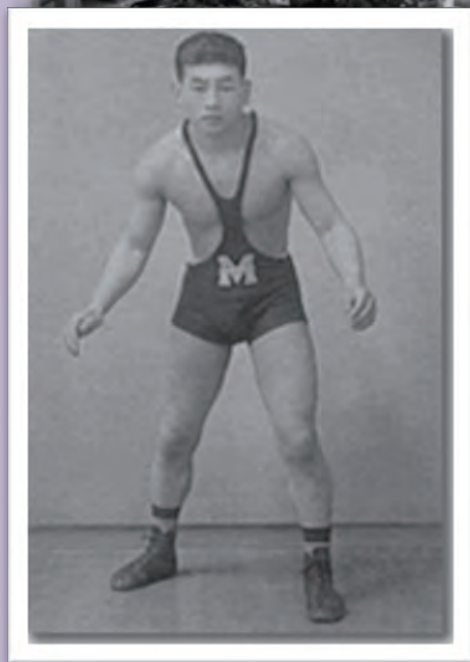


明治大学 レスリング部

創部80周年記念



2013年6月22日(土)



80年



昭和11年 創部まもない頃



平成24年

一人ひとりの四年間が積み上げられて、
部の歴史になる。

ふと、めくってみると、その時、輝いていた
懐かしい自分

その時、そこにいてくれてありがとう。



創部80周年を迎えて

明治大学体育会レスリング部
部長 千葉 貴律

明治大学レスリング部は、昭和9（1934）年、本学にレスリング研究会が発足したことを起端としています。柔道や相撲を伝統とする我が国の格闘技の歴史に西洋の格闘技が紹介され、初めてのレスリング・クラブが早稲田大学に創られたのが昭和6（1931）年のこと。その翌（1932）年に日本アマチュア・レスリング協会（現日本レスリング協会）が設立され、その後、慶應義塾大学や専修大学等にもレスリング部が創設されました。

本学レスリング部は、このようなまさに日本レスリング揺籃期に産声を上げたのであり、2年後の昭和11（1936）年には、早くも本学体育会の正規運動部として公認されたのです。

それから80年。時代も昭和から平成に代わって25年目の今日、明治大学体育会レスリング部は、在学生を含め、500名に届かんとする学生を教育・育成し、レスリングで鍛えられた肉体と精神を備えた有為な人材を世に送り出してまいりました。しかし、時代の変遷とともにオリンピックや世界選手権大会に代表選手を輩出した輝かしい黄金期は過ぎ、今年に入っては、オリンピック発祥以来の競技種目であるレスリングを2020年大会の中核競技から除外するといった論議も巻き起こりました。

時代の変化から逃れる術はありません。しかし、これらの変化にただ流されるのではなく、新たな変革に向けての胎動とすることはできるはずです。80年前、我が国格闘技界にレスリングが新風を起こしたように、変化を次なる飛躍に向けての助走としなければなりません。進むべき未来は、80年に及ぶ歴史と伝統の中にこそあるものと信じております。

本学レスリング部OB並びに御父母、関係者の皆様方には、これまで以上の御支援、御協力を賜りましたら幸いに存じます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



レスリング部創部80周年によせて

明治大学レスリング部OB会
会長 田村 英司

明治大学レスリング創部80周年を迎えるに当たり、栄光の歴史と伝統を築いてくれた、数多くの先輩方に深く感謝しております。

レスリング部創生期の事は、村田恒太郎先輩の記述から、太平洋戦争当時は数々の御苦勞をされつつ、打倒早稲田に努力していたことが分かります。また、明治レスリングは、創部もない昭和11年のベルリン大会からオリンピックに参加しております。

戦後になるとレスリングは、オリンピックでメダルを獲得出来る競技として注目され、明治レスリングも昭和27年のヘルシンキ大会から多数の名選手を輩出する一方、故田口美智留前OB会長も国際審判員として長年活躍され、我が明治大学は日本レスリング界の中心的立場にありました。

現役学生の頃は、団体戦の決勝はいつも中央大学戦でした、狭い青山レスリング会館が異様な熱気に包まれ、激しく競い合ったことが懐かしい思い出であります。

最近の日本男子レスリングは一時期の停滞から、金メダル獲得の実力をつけております。これには関係者、選手の並々ならぬ努力の賜物と拝察致しますが、女子レスリングの活躍にも影響を受けたように思われます。

今、明治レスリングの成績は伸び悩んでおりますが、大学側の御理解ある諸策と関係者の力強い協力のもとに、強くなる条件は揃ってまいりました、近い将来には必ず古豪明治の復活を果たし、日本レスリングの発展に寄与するものと確信しております。

どうか今日の80周年を通過点として、大学及び、OB諸氏の更なる協力を仰ぎ、強い明治を育てあげ、レスリングで鍛え抜かれた立派な卒業生を、社会に送り出す良き伝統は、末永く継承されるよう心から祈っております。



明治大学体育会レスリング部創部80周年によせて

明治大学 学長

明治大学体育会 会長 福宮 賢一

このたび、明治大学体育会レスリング部が創部80周年を迎えられますこと、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

本学体育会レスリング部の起源は、その前身となるレスリング研究会が発足する以前の1933（昭和8）年に遡ります。1936（昭和11）年に正式に部として承認されて以降は、数々の輝かしい戦績を収める一方で、部員不足により存続を危ぶまれるなどの苦難を乗り越え、今日に至っていると伺っています。これまで、部の発展に寄与されてこられた幾多の先達、先輩諸氏、また日頃より選手の育成にあたられている監督、部長、さらにはご関係者の皆様に、学長・体育会長としての立場から、心より敬意と謝意を捧げます。

2013年に入り、国際オリンピック委員会（IOC）は、レスリングを2020年の夏季五輪競技から除外するとの勧告を発表しました。このことについて、本学も、レスリングにおいて日本初の五輪となる1932（昭和7）年ロサンゼルス大会の代表、1968（昭和43）年メキシコシティ大会（ライト級）の優勝者、1972（昭和47）年ミュンヘン大会（57kg級）の優勝者を擁する大学として、近年「日本のお家芸」と称されるこの競技を守る立場にあります。

このように、多くの国際大会で実績を重ねる本学レスリング部は、学生スポーツ界のみならず、日本レスリング界の発展の一翼を担っているといっても過言ではなく、本学にとっても大変栄誉なことです。現役の皆さんには、是非この伝統に誇りをもって、さらに志高く突き進んでほしいと願っております。

結びにあたり、体育会レスリング部が創部80周年を節目に、今後より一層の飛躍を遂げられますことを心から祈念申し上げて、私の挨拶といたします。



明治大学体育会レスリング部創部80周年を祝して

明治大学駿台体育会

会長 小林 正三郎

明治大学体育会レスリング部創部80周年を心からお祝いお慶び申し上げます。

レスリング部の輝かしい歴史と伝統は、過去の実績・盛会に裏付けられたものであります。

オリンピックにおいて、第10回ロサンゼルス大会から第18回東京大会を経て第20回ミュンヘン大会まで日本代表選手を送り続け多くのメダリストを輩出しています。

国内においても、全日本学生王座決定戦、東日本学生リーグ戦、関東大学リーグなど、数々の連覇を成し遂げ、明治大学の名を高らしめ栄光と伝統を築いてこられました。

現在レスリング競技は、2012年ロンドンのオリンピックで日本女子選手等の大活躍で国中が盛り上がり、吉田選手の国民栄誉賞で頂点に達した感があります。そこへ突然、IOCがレスリングを2020年大会からオリンピック種目から除外するという激震が走りました。レスリング界最大の危機として国際レスリング連盟が素早い対応を見せておりますので朗報を待ちたいと思います。

国内ではスポーツにおける監督・コーチの指導方法について、いくつかの事例発生を受けて、マスコミ報道も含め社会問題化するのではないかと懸念が持たれています。

スポーツ界全体に課せられた重要な課題であり、今後のアスリートの育成方法が問われることとなります。

社会環境・時代が大きく変わるこの時期に、レスリング部は創部80周年という大きな転換点を迎えました。レスリング界の動向・部の強化復活など厳しく難しい局面に現役・OB一体となって、鋭意取り組み、成果発展につながることを切に期待いたします。



レスリング部創部80周年を祝す

学校法人 明治大学
理事長 日高 憲三

体育会レスリング部が、創部80周年を迎えられました。これもひとえに、千葉貴律部長、岩山喜代司監督、そして永年指導に携わられている多賀恒雄総監督をはじめとした歴代関係諸氏の熱意と努力の賜物と存じます。心よりお祝いを申し上げます。

さて、明治大学は、ご存知のように「個を強くする大学」を理念としています。私は、世界で活躍する人材に必要な能力として、知識や教養、英語力も大切ですが、何よりも社会に埋没しない強い個性が重要だと思っています。個性とは、責任感、情熱、挑戦する心、知恵、リーダーシップといった様々な要素を持っていますが、体育会活動は、個性を育む貴重な場であると認識しております。

ところで、本学レスリング部は、早稲田、慶應義塾、専修大学と並んで、国内でもっとも長い歴史をもつレスリングクラブの一つであり、古くから、世界を舞台に活躍する選手を輩出してきました。2012年9月に財団法人日本レスリング協会創立80周年記念式典が行われましたが、私はこの席上で、レスリング協会から多数の大学を代表して、感謝状を頂戴し、たいへん誇らしく思いました。この感謝状は、本学が、これまで多くのオリンピック選手の輩出に貢献したことと、偉大なる先輩たちの活躍の証です。本学レスリング部出身者のうち、これまで金メダリスト2名を含む16名が、オリンピックに出場するなど、日本レスリング界においても輝かしい実績を誇っています。部員数の減少など、低迷した時期もあったようですが、近年は女性部員も入部し、時代と共に新しい歴史を紡いでいると感じております。現役諸君は、部活動を通じて、技術だけではなく、個性を磨き、そして、先輩たちが築いてきた素晴らしい伝統を後輩たちに継承していくことを願っています。

結びにあたり、レスリング部関係者の皆様方のご活躍とご多幸、そして、体育会レスリング部の今後ますますのご発展を心からお祈り申し上げます。



明治大学体育会レスリング部創部80周年によせて

明治大学駿台体育会
理事長 田部井 茂

このたび、明治大学体育会レスリング部が創部80周年を迎えられますこと、衷心よりお祝いとお慶び申し上げます。

私自身、本学在学中（昭和54年卒）フリースタイル57kg級として青春時代を謳歌し、卒業後は、前監督（故）笠原茂先生の命を受け、監督（1982年から約四半世紀）をしてきましたが、その間、レスリングOB諸氏はもとより大学当局のご支援、またレスリング協会あるいは全日本学生レスリング連盟等、多くの方達からたくさんのご指導・ご支援並びにご厚情を賜りました。史面をお借りして衷心より厚く御礼申し上げます。さて、このたびの80周年の慶事を迎えるにあたり、忘れてはならないことがあります。偏に80年と云うが如し、この長い歳月を多くのOBが苦難の時代を乗り越えてきたことに対する敬意と感謝を忘れてはなりません。現在、大学の環境はますます充実してきており、この環境を当たり前と空恐ろしさを感じつつ、満足のいく成果を得られず過ごしたことが悔やまれます。籍を置き優勝の2文字に届くことなく万年2位・3位という不本意な成績で終えたことを申し訳なく思っております。本学体育会レスリング部は、レスリング研究会を発足し、正式に部として承認されて以降、戦前・戦後を通じ幾多の困難を乗り越え、数々の輝かしい戦績を収めてきました。また、一方では部員不足から部の存続を危ぶまれるなどの苦難を乗り越え、今日に至っていると伺っています。これまで、部の発展に寄与されてこられた幾多の先達、先輩諸氏、また日頃より選手の育成にあたられている監督、部長、さらにはご関係者の皆様、心より敬意と謝意を捧げます。2013年に入り、国際オリンピック委員会（IOC）は、レスリングを2020年の夏季五輪競技から除外するとの勧告を発表しました。このことについて、本学も、レスリングにおいて日本初の五輪となる1932（昭和7）年ロサンゼルス大会の代表、1968（昭和43）年メキシコシティ大会（ライト級）の優勝者、1972（昭和47）年ミュンヘン大会（57kg級）の優勝者を擁する大学として、近年「日本のお家芸」と称されるこの競技を守る立場にあります。このように、多くの国際大会で実績を重ねる本学レスリング部は、学生スポーツ界のみならず、日本レスリング界の発展の一翼を担っているといっても過言ではなく、本学にとっても大変栄誉なことです。現役の皆さんには、是非この伝統に誇りをもって、さらに志高く突き進んでほしいと願っております。

結びにあたり、体育会レスリング部が創部80周年を節目に、今後より一層の飛躍を遂げられますことを心から祈念申し上げて、私の挨拶といたします。



創部80周年をお祝いして

公益財団法人 日本レスリング協会
会 長 福田 富昭

明治大学レスリング部は、昭和9年に産声を上げ、昭和11年に明治大学体育会レスリング部として正式に発足したと聞いております。それ以来、学生レスリング界のトップリーダーとして、今日に至るまで輝かしい戦績を残され、日本レスリング界に「明治大学レスリング部あり！」と燦然たる光を放ち続けております。今後も日本レスリング界最強の大学の一つとしてご活躍されるものと確信しております。

明治大学レスリング部は、過去において数多の学生チャンピオン、日本チャンピオン、アジアチャンピオンおよび世界チャンピオンを輩出し、その名前を挙げればきりがありません。中でも、故笠原茂さん（メルボルンオリンピック銀メダリスト）、宗村宗二さん（メキシコオリンピック金メダリスト）、柳田英明さん（ミュンヘンオリンピック金メダリスト）、和田喜久夫さん（ミュンヘンオリンピック銀メダリスト）は世界的にも活躍した特筆すべき選手でした。これらの成果は一朝一夕に成ったものではなく、厳しく、辛く、激しいトレーニングと、それに耐えた選手たちの努力の賜物と深く敬意を表するものであります。

ここに80周年を記念し心からお祝い申し上げるとともに、日本レスリング界に対して果たされたご功績に対して心から感謝申し上げます。

最後に、I O C理事会による2020年オリンピックでのレスリング競技不採用通知に対し、日本レスリング協会は、次のI O C理事会および総会において、オリンピック種目としてのレスリング競技存続決定を勝ち取るべく全力を挙げて活動をしているところであります。多くの皆様の署名活動をはじめとするご支援ご協力の程よろしくお願ひし、明治大学レスリング部創部80周年のお祝いの言葉と致します。

**Support
Olympic
Wrestling**



80周年を迎えて

明治大学体育会レスリング部
総監督 多賀 恒雄

明治大学体育会レスリング部は、昭和9年に産声をあげてより今日に至るまで、絶え間なく活動してまいりましたが、ここにめでたく創部80周年を迎えることができましたことはまことに慶賀に堪えません。艱難辛苦に耐え、今日の栄えある姿に導いてくださいました先輩諸氏に対し、心より敬意を表するとともに深く感謝する次第であります。また、我が部を支えてくださいました学校法人明治大学はじめ関係各位には衷心より御礼を申し上げます。

創部以来、我がレスリング部は、東日本学生リーグ戦6連覇をはじめ、数多くのタイトルを獲得し、学生レスリング界の雄として「スポーツの中のスポーツ」としての歴史を持つレスリング競技の発展に貢献してまいりました。さらに、オリンピックで2つの金メダル、2つの銀メダルを獲得したのをはじめ、世界選手権、アジア大会等の国際大会や全日本選手権でも数多の優勝者を輩出し、日本レスリング界の牽引車として、正に八面六臂の活躍をしてきた栄光の歴史を有しております。

このような栄光の歴史に彩られたレスリング部も、近年では目立った成績があげられておりませんが、学生スポーツの原点と明治大学レスリング部の不屈の精神に立ち返り、勉学とスポーツを両立させながら、再び栄光を取り戻すことが我々の使命と心得、なお一層精進、努力を重ねていく所存でございます。我々の決意を表明するとともに、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

明治大学体育会レスリング部
監督 岩山 喜代司

レスリングの歴史は5000年に遡るといわれています。日本レスリング協会元会長の八田一郎氏の著書によれば、「ペンシルバニア大学の考古学チームが1938年にメソポタミアで古墳を発掘中に拳闘とレスリングの図を発見し、5000年が経過していると推定した」とあります。

紀元前776年から紀元後393年にわたって293回開催された古代オリンピックにおいて、レスリングは第18回大会から開催され、その後、メイン競技として栄えたことが分かっています。又、1896年から開催されている近代オリンピックでは、第1回大会から正式種目となっております。

これほど歴史のあるレスリングをIOCがオリンピックの中核競技から除外したことは理解に苦しむところです。

さて、明治大学レスリング部の創部は早稲田大学に遅れること3年の昭和9年に産声を上げ、日本のレスリング界とともに80年間を歩んでまいりました。その間、大学当局をはじめとする関係各位のご協力により、オリンピックの金メダリストを含む数多くの名選手を輩出することができました。関係各位に深く感謝申し上げます。

平成20年に伝統ある明治大学レスリング部の監督を拝命いたしました。スポーツ特別入試の改正や強化費の拡充等、大学当局の多大なるご支援を頂きながら、期待に応える成果を上げていない現状に強く責任を感じております。

強い明治大学レスリング部を目指し努力することが選手たちの人間形成に繋がると考えております。レスリングを通じ立派な社会人を排出することが与えられた使命と考え、「古豪復活」にむけて全力を挙げて努力する所存でありますので、引き続き関係各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

明治大学レスリング部80年のあゆみ

◆ 明治大学で24番目に誕生したレスリング部

昭和8年、伊集院浩氏が松田滋夫(初代主将)、井手温良、渡辺海三(2代目主将)の両氏及び柔道部員数名を早大レスリング部道場に通わせ、技術を会得し翌昭和9年にレスリング研究会として発足させた。顧問には小柴為三氏、コーチはハワイから招いた遠山勲氏があたった。

昭和11年正式にレスリング部と改称し、大学の承認を得た。初代部長として西村文太郎氏が就任した。

ついで昭和16年佐々木吉郎氏が部長に就任、昭和44年までその任に当り、多大な貢献を果たしている。ついで昭和45年から昭和48年まで皆河宗一氏が部長に就任、昭和49年から昭和59年までは水谷光壮氏が就任、昭和60年から平成2年に笠原茂氏が就任、平成3年より山田庫平氏が就任し平成17年より千葉貴律氏が現在に至っている。

初代監督には、永谷光壮氏が昭和16年から昭和32年まで就任し、部の指導に力をそそいだ。昭和33年から昭和56年まで笠原茂氏が就任、昭和57年から平成16年まで田部井茂氏が就任、笠原・田部井監督は20年以上の多岐(物心両面)に渡り、部の指導に力をそそいだ。平成17年より山村健氏が就任し、平成20年より岩山喜代司氏が就任し現在に至っている。

部の主な競技歴として、昭和13年から昭和16年まで関東大学リーグ戦で6連覇、戦後再開した東日本学生リーグ戦に13回の優勝を勝ちとっている。また、全日本学生王座決定戦は優勝5回、個人戦の競技成績においては、第10回ロサンゼルスオリンピックで河野芳雄(フリーフェザー級)氏が参加(創部前)、第11回ベルリンオリンピックでは吉岡秀市(グレコ・フェザー級)氏が参加、水谷光壮(フリーフェザー級)氏6位と入賞、ヘルシンキオリンピックでは、富永利三郎(フリーフェザー級)氏が5位、霜鳥武雄(フリーライト級)氏が6位に入賞、第16回メルボルンオリンピックでは、笠原茂(フリーライト級)氏銀メダル、飯塚実(フリーバンタム級)氏が5位に入賞、第17回ローマオリンピックでは、阿部一男(フリーライト級)氏、青海上(グレコ・ミドル級)氏、石倉俊太(グレコ・ライトヘビー級)氏が参加、第18回東京オリンピックでは、渡辺保夫(フリーウェルター級)氏が5位、プロレスラーとして活躍した斉藤昌典(フリーヘビー級)氏、風間貞夫(グレコ・ウェルター級)氏、プロレスラー・実業家として活躍した杉山恒治(グレコ・ヘビー級)氏が各々参加、第19回メキシコオリンピックでは、宗村宗二(グレコ・ライト級)氏が我が部初の金メダルを獲得、第20回ミュンヘンオリンピックでは、柳田英明(フリー57kg級)氏が金メダル獲得、和田喜久夫(フリー68kg級)氏が大学在学中に銀メダルを獲得し活躍した。第22回モスクワオリンピックでは、多賀恒雄(フリー62kg級)氏、宮原章(フリー68kg級)氏の両氏は、日本不参加のため幻の代表選手となった。また、宮原章氏は、初の学生選手権四連覇の偉業を達成している。

その後、全日本学生選手権及び全日本大学選手権大会、世界学生選手権大会、アジアジュニア選手権にて活躍する者が多数いるが、近年では、新興大学の隆起に伴い、戦国時代の様相を呈している。今後更なる精進を重ね、「古豪復活」を目指し、OB会及び首脳陣の力を結集させ、輝かしい戦歴と伝統を築き上げていきたい。

今回は、次の区分にしたがい「明治大学レスリング部のあゆみ」について紹介する。

- ◆ 黎明(1934～1943)
- ◆ 復興(1946～1952)
- ◆ 隆盛(1953～1967)
- ◆ 奮戦(1968～1980)
- ◆ 再興(1981～1995)
- ◆ 新生(1996～2002)
- ◆ 挑戦(2003～2012) 各期代表からのメッセージ・特別寄稿「逆境を乗り越えて」
- 歴代部長・監督
- 世界に羽ばたいた明治魂(明大レスリング部とオリンピック)



黎明(1934~1943)

年 月	あ ゆ み
昭和9年 4月 (1934) 12月	明治大学レスリング部創設 伊集院浩(右写真)ら 創設に尽力 第1回早明対抗 初の公式試合   
昭和10年 4月 (1935) 11月	第2回全日本選手権大会 倉垣優勝 三大学リーグ戦2位 昭和初期の明治大学 初代主将 松田滋夫
昭和11年 8月 (1936) 10月 12月	ベルリンオリンピック 水谷6位、吉岡参加 関東学生リーグ戦優勝 全日本選手権 倉垣・吉岡・豊田優勝  
昭和12年 5月 (1937) 11月	関東学生リーグ戦2位 全日本選手権 吉岡・金優勝 関東学生リーグ戦2位 練習風景(11年) 伊東合宿(11年8月)
昭和13年 6月 (1938) 8月	関東学生リーグ戦優勝 全日本選手権 吉岡優勝 
昭和14年 6月 (1939) 10月	関東学生リーグ戦優勝 関東学生リーグ戦優勝 全日本選手権 鷺見・黄優勝 リーグ戦連覇記念(14年8月)
昭和15年 4月 (1940) 5月 10月 12月	皇紀2600年慶祝レスリング大会 関東学生リーグ戦優勝 関東学生リーグ戦優勝 全日本選手権 清水・鷺見・ 金優勝 
昭和16年 5月 (1941) 10月 11月	関東学生リーグ戦優勝 6連覇 関東学生リーグ戦2位 日大、拓大加わり2部リーグ制 全日本選手権 黄優勝 リーグ戦3連覇記念(14年11月)
昭和17年 (1942) 6月 7月	外来スポーツのレスリングは敵性 スポーツのレッテルを貼られ周囲 をはばかりよう実施 関東学生リーグ戦2位 全日本選手権 村田・余越優勝 
昭和18年 5月 (1943)	関東学生リーグ戦優勝(明大地下道場) 戦争により活動停止 リーグ戦6連覇記念(16年5月)



復興(1946~1952)

年 月	あ ゆ み
昭和 21 年 (1946) 9 月 11 月	昭和 20 年から 21 年にかけて各地より引き上げてきた指導者、選手が次第に集まり大学レスリング部が復活 関東学生リーグ戦 1 部 3 位 1 部早・慶・明の順 2 部中・立・日体の順 全日本選手権国技館で開催
	 なつかしの道場 (22年)
昭和 22 年 (1947) 5 月 10 月	地方部員は、堀切菖蒲園の「白雲寮」で生活 関東学生リーグ戦 1 部 3 位 関東学生リーグ戦 1 部 3 位 全日本選手権 鎌田・村田優勝
	 合宿 (23年)
昭和 23 年 (1948) 5 月 10 月 12 月	関東学生リーグ戦 1 部 3 位 関東学生リーグ戦 1 部 3 位 全日本選手権 富永・霜鳥優
	 リーグ戦優勝メンバー (24年)
昭和 24 年 (1949) 5 月 8 月 10 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 中大加盟 全日本選手権 霜鳥優勝 関東学生リーグ戦 1 部 2 位
昭和 25 年 (1950) 5 月 6 月 10 月	関東学生リーグ戦 1 部 2 位 全日本選手権 霜鳥優勝 関東学生リーグ戦 1 部 2 位
	 部の送別会：師弟食堂 (25年)
昭和 26 年 (1951) 4 月 6 月 10 月	関東学生リーグ戦 1 部 2 位 リーグ戦は春のみとし、秋に王座決定戦設立 全日本選手権 霜鳥優勝 王座決定戦 中大優勝 明治 2 位
昭和 27 年 (1952) 4 月 5 月 7 月 11 月	農学部内に生田合宿所・道場が竣工 関東学生リーグ戦 1 部 2 位 ヘルシンキオリンピック 富永 5 位、霜鳥 6 位 全日本選手権 霜鳥全日本 5 連覇 富永・伊藤・曾根優勝 王座決定戦 2 位
	 合宿 (25年)



隆盛(1953~1960)

年 月	あ ゆ み	
昭和 28 年 4 月 (1953) 8 月 11 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 全日本選手権 飯塚・小倉・伊藤優勝 王座決定戦 優勝	
昭和 29 年 5 月 (1954) 6 月 11 月 12 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 アジア大会 (マニラ) 飯塚・笠原・霜鳥優勝 王座決定戦 優勝 全日本選手権 飯塚・笠原優勝	
昭和 30 年 5 月 (1955) 11 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 王座決定戦 優勝 全日本選手権 笠原・木村優勝	
昭和 31 年 5 月 (1956) 9 月 11 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 ワールド杯争奪世界大会 (イスタンブール) 飯田・飯塚 3 位 全日本選手権 飯塚・笠原・木村優勝 王座決定戦 優勝 メルボルンオリンピック 飯塚 5 位 笠原 銀メダル	
昭和 32 年 5 月 (1957) 6 月 10 月 11 月	関東学生リーグ戦 1 部 2 位 世界選手権大会 (イスタンブール) 阿部 3 位・黒田 5 位 王座決定戦 2 位 中大優勝 全日本選手権 矢田・石倉 高木優勝	
昭和 33 年 5 月 (1958) 6 月 10 月 11 月	アジア大会 (東京) 飯塚優勝、阿部・高木 2 位 関東学生リーグ戦 1 部優勝 王座決定戦 2 位 中大優勝 全日本選手権 阿部・青海・味方・石倉 高木優勝	
昭和 34 年 6 月 (1959) 10 月 11 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 王座決定戦 2 位 中大優勝 全日本選手権 大橋・石倉・青海優勝	
昭和 35 年 5 月 (1960) 8 月 10 月 12 月	関東学生リーグ戦 1 部優勝 ローマオリンピック 阿部・石倉・青海参加 王座決定戦 2 位 中大優勝 全日本選手権 阿久津・波山・杉山優勝	

リーグ戦優勝メンバー (28年)

リーグ戦優勝メンバー (29年)

生田春合宿 (30年)

リーグ戦優勝メンバー (34年)

岐阜夏合宿 (35年)



隆盛(1961~1967)

年 月	あ ゆ み
昭和36年 5月 (1961) 6月 9月 11月	<p>関東学生リーグ戦1部2位 世界選手権大会(慶大記念館) 阿部、佐々木、風間、丸山、杉山出場</p> <p>王座決定戦 2位</p> <p>全日本選手権 阿部・杉山・梶川・佐々木 風間優勝</p>
昭和37年 5月 (1962) 7月 8月 10月	<p>関東学生リーグ戦1部優勝 全日本選手権 阿部、高木 佐々木、波山優勝</p> <p>アジア大会(ジャカルタ) 阿部、佐々木優勝 高木2位</p> <p>王座決定戦 3位</p>
昭和38年 5月 (1963) 10月	<p>関東学生リーグ戦1部4位 世界選手権 池田、織部 斎藤、岩室、波山風間出場</p> <p>王座決定戦 3位</p> <p>全日本選手権 風間優勝</p>
昭和39年 7月 (1964) 8月 10月 11月	<p>王座決定戦 優勝</p> <p>全日本選手権 渡辺・斎藤・宗村・風間・波山 斎藤優勝</p> <p>東京オリンピック 渡辺5位・斎藤・風間、杉山出場</p> <p>関東学生リーグ戦1部優勝</p>
昭和40年 5月 (1965) 6月 7月 10月	<p>東日本学生リーグ戦 1部3位</p> <p>世界選手権(フリー) 英国 森田・渡辺3位・殿村7位</p> <p>世界選手権(グレコ) フィンランド 宗村4位</p> <p>全日本選手権 河内・渡辺・宗村優勝</p> <p>王座決定戦 2位</p>
昭和41年 5月 (1966) 10月	<p>東日本学生リーグ戦 1部4位</p> <p>全日本選手権 渡辺・服部・岩室・宗村 藤井優勝</p> <p>王座決定戦 2位</p>
昭和42年 5月 (1967) 10月	<p>東日本学生リーグ戦1部優勝 世界選手権(グレコ)ルーマニア 服部・岩上・高橋・赤坂 小坂優勝</p> <p>王座決定戦 2位</p>



全日本選手権優勝者(36年)



夏季合宿 阿蘇(36年)



リーグ戦終了後伊東へ(37年)



岡山合宿(37年)



春合宿(38年3月)



生田(40年)



奮戦(1968~1974)

年 月	あ ゆ み
昭和 43 年 3 月 (1968) 5 月 9 月 10 月	全日本選手権 森田・宗村優勝 東日本学生リーグ戦 1 部 7 位 王座決定戦 4 位以下 メキシコオリンピック 宗村 金メダル
昭和 44 年 (1969) 3 月 5 月 10 月 11 月	体重別 10 階級に変更 世界選手権アルペン 森田優勝 東日本学生リーグ戦 2 部優勝 (2 部残留) 全日本学生選手権 柳田優勝 王座決定戦 4 位以下
昭和 45 年 5 月 (1970) 7 月 8 月 11 月 12 月	東日本学生リーグ戦 2 部優勝 (1 部復帰) 世界選手権 柳田優勝 全日本学生選手権 和田優勝 全日本選手権 柳田・和田優勝 王座決定戦 4 位以下 アジア大会 (バンコク) 柳田・和田優勝
昭和 46 年 (1971) 5 月 6 月 9 月 10 月	ルール改正円形マット採用 東日本学生リーグ戦 1 部 4 位 全日本選手権 柳田優勝 全日本学生選手権 斉藤・宮原・熊坂優勝 王座決定戦 3 位
昭和 47 年 5 月 (1972) 6 月 8 月 10 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 2 位 全日本選手権 柳田・和田優勝 ミュンヘンオリンピック 柳田 金メダル 和田 銀メダル 全日本学生選手権 宮原・飯野・熊坂優勝 王座決定戦 優勝
昭和 48 年 (1973) 5 月 8 月 9 月 10 月	生田に新合宿所竣工 東日本学生リーグ戦 1 部 A 2 位 全日本選手権 和田・飯野優勝 全日本学生選手権 宮原優勝 王座決定戦 4 位以下
昭和 49 年 5 月 (1974) 9 月 10 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 2 位 全日本学生選手権 宮原 (4 年連続)・飯野優勝 王座決定戦 2 位



メキシコオリンピック宗村 (43年)



滑川合宿 (43年)



仙台合宿 (46年)



ミュンヘンオリンピック柳田 (47年)



新合宿所前 (48年)



奮戦(1975~1980)

年 月	あ ゆ み
昭和 50 年 4 月 (1975) 5 月 9 月 10 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 2 位 第 1 回全日本大学選手権 金子・川島 3 位、小柳優勝 全日本学生選手権 金子優勝 今野 2 位 王座決定戦 3 位
昭和 51 年 4 月 (1976) 5 月 8 月 10 月 11 月	全日本選手権 小柳 2 位 東日本学生リーグ戦 1 部 B 2 位 全日本学生選手権 多賀・小柳・長谷川優勝 今野 3 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 多賀・小柳・長谷川優勝 田部井・佐藤 3 位
昭和 52 年 5 月 (1977) 6 月 10 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 3 位 全日本選手権 長谷川優勝 多賀・宮原 2 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 多賀優勝、田部井 2 位
昭和 53 年 5 月 (1978) 7 月 10 月 11 月 12 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 4 位 全日本選手権 宮原優勝 多賀 2 位・小松 3 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 田部井 3 位、小松 3 位 アジア大会バンコク 宮原 2 位
昭和 54 年 5 月 (1979) 6 月 10 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 3 位 全日本選手権 多賀・宮原優勝 小松 2 位・鈴木 3 位 王座決定戦 4 位 全日本大学選手権 小柳 3 位
昭和 55 年 4 月 (1980) 5 月 8 月 10 月 11 月	全日本選手権大会兼 モスクワオリンピック選考 多賀・宮原優勝 (幻の代表選手) 東日本学生リーグ戦 1 部 A 3 位 全日本学生選手権 西塚優勝 王座決定戦 4 位 全日本大学選手権 西塚 3 位



試合が終わっての納会にて (50年)



駒沢体育館 (51年)



明大対アメリカ学生選抜親善試合 (51年)



館林合宿 (55年)



納会 (55年)



再興(1981~1988)

年 月	あ ゆ み
昭和 56 年 5 月 (1981) 7 月 8 月 9 月 12 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 4 位 全日本選手権 金子 2 位 全日本学生選手権 橋本優勝、菊池 2 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 橋本 3 位
	
	リーグ戦 駒沢体育館 (57年)
昭和 57 年 5 月 (1982) 7 月 10 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 4 位 全日本選手権 金子優勝 宮原 2 位 鈴木・小松 3 位 王座決定戦 4 位以下 アジア大会インド 金子優勝 全日本大学選手権 4 位以下
	
	長野合宿 (57年)
昭和 58 年 5 月 (1983) 6 月 7 月 10 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 5 位 明大レスリング部創部 50 周年記念式典 ホテルニューオータニ 全日本選手権 金子 2 位・多賀 3 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 4 位以下
	
	コロンビア・ベネズエラ遠征 (59年)
昭和 59 年 5 月 (1984) 9 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A 4 位 全日本選手権 多賀 3 位 明大レスリング部創部 50 周年記念 コロンビア・ベネズエラ遠征 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 4 位以下
	
	納会 (59年)
	
	4 年生メンバー (60年)
昭和 60 年 5 月 (1985) 9 月 10 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 5 位 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 大拙 3 位
昭和 61 年 5 月 (1986) 8 月 9 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 5 位 全日本学生選手権 大拙優勝 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 4 位以下
	
	4 年生メンバー (61年)
	
	沖縄合宿 (61年)
昭和 62 年 5 月 (1987) 9 月 11 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B 6 位 入替え戦 1 部残留 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 4 位以下
昭和 63 年 5 月 (1988)	東日本学生リーグ戦 1 部 A 6 位 ソウル五輪日本代表最終選考会 竹沢出場 王座決定戦 4 位以下 全日本大学選手権 4 位以下 エスポワールワールドカップチャンピオンシップ 仁田出場
	
	高岡合宿 (63年)



再興(1989~1995)

年 月	あ ゆ み
平成元年 5月 (1989) 8月 10月 11月	東日本学生リーグ戦1部B 6位 スイスでフリー・グレコ・女子 の世界選手権が同時開催 全日本学生選手権 大阪 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 4位以下
平成2年 5月 (1990) 8月 10月 11月	東日本学生リーグ戦1部B 3位 全日本学生選手権 大阪 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 4位以下 窪木3位
平成3年 5月 (1991) 7月 9月 10月 11月 12月	東日本学生リーグ戦1部B 5位 世界エスポアール選手権 (チェコスロバキア) 窪木2位 全日本学生選手権 草津 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 窪木優勝・松野2位 バルチ叶五輪・アジア選手権代表 選手権 星野・松野出場
平成4年 5月 (1992) 8月 9月 11月	東日本学生リーグ戦1部B 2位 全日本学生選手権 宮崎3位 窪木優勝 松野2位 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 窪木2位
平成5年 5月 (1993) 6月 8月 9月 11月	東日本学生リーグ戦1部B 5位 明大レスリング部創部60周年 記念式典 ホテルニューオータニ 全日本学生選手権 横浜 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 4位以下
平成6年 5月 (1994)	東日本学生リーグ戦1部B 7位 群馬大と入替え戦 1部残留 全日本学生選手権 新潟 王座決定戦 不参加 全日本大学選手権 4位以下
平成7年 5月 (1995) 8月 9月 11月	東日本学生リーグ戦1部B 5位 全日本学生選手権 大阪 王座決定戦 4位以下 全日本大学選手権 4位以下



富士合宿納会 (63年)



主力メンバー (元年)



世界エスポアール選手権 窪木 (3年)



生田合宿所 (元年)



大学選手権終了後 山形 (3年)



沖縄合宿 (3年)



新生(1996~2002)

年 月	あ ゆ み
平成 8 年 4 月 (1996) 5 月 8 月 9 月 11 月	<p>エスポール全日本選手権 森 3 位 吉田 3 位</p> <p>東日本学生リーグ戦 1 部 B 5 位 入替え戦で 2 部 A に転落</p> <p>全日本学生選手権 倉敷</p> <p>王座決定戦 4 位以下</p> <p>全日本大学選手権 4 位以下 第 1 回六大学チャンピオンシップ 4 位 優秀選手賞・森</p>
	 <p>部員一同 (8年)</p>  <p>第 1 回六大学チャンピオンシップ (8年)</p>
平成 9 年 5 月 (1997) 8 月 9 月 10 月	<p>東日本学生リーグ戦 2 部優勝 入替え戦早稲田大学に勝ち 1 部 B 復帰</p> <p>全日本学生選手権 群馬</p> <p>王座決定戦 4 位以下</p> <p>第 2 回六大学チャンピオンシップ 優勝 優秀選手賞・神村 全日本大学選手権 17 位</p>
	 <p>リーグ戦打ち上げ (9年)</p>
平成 10 年 5 月 (1998) 8 月 10 月 11 月	<p>東日本学生リーグ戦 1 部 B 2 位 入替え戦で大東文化大学に敗れ 1 部 A 昇格ならず</p> <p>全日本学生選手権 群馬 王座決定戦 4 位以下</p> <p>第 3 回六大学チャンピオンシップ 優勝 優秀選手賞・大原</p> <p>全日本大学選手権 8 位</p>
	 <p>リーグ戦 専修に勝利 (10年)</p>
平成 11 年 5 月 (1999) 8 月 9 月 10 月	<p>東日本学生リーグ戦 1 部 B 5 位</p> <p>全日本学生選手権 健志台</p> <p>王座決定戦 4 位以下</p> <p>第 4 回六大学チャンピオンシップ 優勝 優秀選手賞・秋山 全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会 武藤 2 位</p>
	 <p>学生選手権 (11年)</p>
平成 12 年 5 月 (2000) 8 月 9 月 10 月	<p>東日本学生リーグ戦 1 部 15 位</p> <p>全日本学生選手権 群馬</p> <p>ジュニアアジア選手権 (インド) 渡辺 2 位</p> <p>王座決定戦 4 位以下</p> <p>第 5 回六大学チャンピオンシップ 2 位 優秀選手賞・小尾</p>
	 <p>部員一同 (13年)</p>
平成 13 年 5 月 (2001) 8 月 10 月	<p>東日本学生リーグ戦 1 部 15 位</p> <p>全日本学生選手権 駒沢</p> <p>第 6 回六大学チャンピオンシップ 2 位 優秀選手賞・武藤</p>
平成 14 年 5 月 (2002) 8 月 11 月	<p>東日本学生リーグ戦 1 部 15 位</p> <p>全日本学生選手権</p> <p>第 7 回六大学チャンピオンシップ 2 位 優秀選手賞・渡辺</p>



挑戦(2003~2007)

年 月	あ ゆ み
平成 15 年 5 月 (2003)	東日本学生リーグ戦 1 部 14 位
6 月	明大レスリング部創部 70 周年記念式典 東京プリンスホテル
8 月	全日本学生選手権 駒沢 後藤 2 位
10 月	第 8 回六大学チャンピオンシップ 2 位
	菅平合宿 (15 年)  部員一同 (15 年) 
平成 16 年 4 月 (2004)	JOC 杯 奥川 3 位
5 月	東日本学生リーグ戦 1 部 10 位
8 月	全日本学生選手権 福岡 新海 3 位
10 月	第 9 回六大学チャンピオンシップ 2 位
12 月	全日本選手権 新海 3 位
	部員一同 (16 年) 
平成 17 年 4 月 (2005)	JOC 杯 宮原 3 位・安西 2 位
5 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位
6 月	アジアジュニア選手権 安西 5 位
8 月	全日本学生選手権 駒沢
9 月	王座決定戦 4 位以下
10 月	第 10 回六大学チャンピオンシップ 2 位
	平成 17 年～ 18 年にかけて合宿所リニューアル 部員一同 (17 年) 
平成 18 年 4 月 (2006)	JOC 杯 宮原 3 位・渡邊 3 位
5 月	東日本学生リーグ戦 1 部 A4 位
8 月	全日本学生選手権 堺 奥川 3 位
9 月	王座決定戦 4 位以下
10 月	第 11 回六大学チャンピオンシップ 2 位
	リーグ戦 (18 年)  
平成 19 年 5 月 (2007)	東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位
8 月	全日本学生選手権 駒沢 宮原 2 位
9 月	王座決定戦 4 位以下
10 月	第 12 回六大学チャンピオンシップ 2 位
11 月	全日本大学選手権 青木 2 位
	部員一同 (19 年) 



挑戦(2008~2012)

年 月	あ ゆ み
平成 20 年 5 月 (2008) 8 月 10 月	東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位 全日本学生選手権 堺 宮原優勝 第 13 回六大学チャンピオンシップ 2 位 全日本大学選手権 青木 3 位
	 部員一同・大学選手権 (20年)
平成 21 年 5 月 (2009) 8 月 9 月 10 月 12 月	東日本学生リーグ 1 部 A6 位 全日本学生選手権 駒沢 渡邊 3 位・塩崎 3 位 王座決定戦 4 位以下 第 14 回六大学チャンピオンシップ 1 位 全日本大学選手権 渡邊 3 位・相澤 2 位
	 リーグ戦 (21年)
平成 22 年 (2010) 5 月 8 月 9 月 10 月 11 月	女子部員入部 東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位 全日本学生選手権 堺 鈴木 3 位・塩崎 2 位・渡邊 3 位 王座決定戦 4 位以下 第 15 回六大学チャンピオンシップ 2 位 全日本大学選手権 徳山 3 位
	 部員一同・学生選手権 (22年)
平成 23 年 4 月 (2011) 5 月 6 月 7 月 9 月 10 月 11 月	JOC 杯 遠藤優勝 鈴木 3 位 東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位 東日本学生女子 加賀 3 位・鈴木 2 位 世界ジュニア選手権 (ルーマニア) 遠藤出場 全日本学生選手権 駒沢 第 16 回六大学チャンピオンシップ 2 位 全日本大学選手権 相澤 3 位・徳山 3 位
	 部員一同・大学選手権 (23年)
平成 24 年 4 月 (2012) 5 月 8 月 10 月 11 月	JOC 杯 遠藤 3 位 東日本学生リーグ戦 1 部 B5 位 全日本学生選手権 堺 第 17 回六大学チャンピオンシップ 2 位 全日本大学選手権 5 位 4 名
	 部員一同 (24年)



挑戦(2003~2012)

各期代表からのメッセージ



平成16年
(2004年)卒
藤巻 正太

レスリングに打ち込み競技の世界にどっぷりと漬かった時間は私にとってかけがえのないものとして残っています。現在の生活の中では勝負の機会というものはほとんどありません。広い意味で言えば、成功や失敗はあるのですが、競技の世界ほどはつきりと結果を突きつけられることは非常に稀なことです。だからこそ、当時、レスリングの勝ち負けに一喜一憂し、出てきた結果がたとえ望んだものでなくとも、その結果と向かい合い、受け入れ、次の目標へと向かうことのできた時代が潔く尊い時間であったと感じます。明大レスリング部の歴史の中で決して輝かしい時代ではなかった4年間は、私にとって大きな意義のあるものとして残っています。



平成17年
(2005年)卒
藤澤 篤司

些細なことがきっかけで、周りの人達の存在に気づき期待に答えられていないことに気が付いたときに、急にしっかりしなければいけないと思った事は今でも忘れられないことです。大げさに「ありがとう!」と伝えることも時には必要なことかもしれませんが、その人達を大切に思うことが最も重要なことではないかと感じることが出来たことが大きく成長できるきっかけであったのではないかと今になり感じています。高校・大学とレスリングをしてきたことは今となり大きな財産で、堂々と社会人生活を送ることが出来ています。これからも明治大学レスリング部のOBとして恥ずかしくないように、皆様の期待を裏切る事の無いように生活をしていければと思っています。今後ともOB会等参加させていただくこともあるかと思いますが、よろしく願いいたします。



平成18年
(2006年)卒
新海 一樹

私は明治大学レスリング部の4年間で「自分が向上するための努力」の大切さを学びました。数年前まで部員数が少なく、練習が十分にできない時期もありました。しかし自分で練習を工夫し、努力することで自分の道というものを切り開き、結果を残してきました。どんなに辛い時も悲しい時も自分が向上できるならばどんなことでも頑張っていこうと努力してきました。後輩のみんなには、自ら考え、実行、努力する過程を大切にしていってほしいです。この過程は人間にしか出来ない、素晴らしい能力だと思っているからです。苦しくても物事から逃げず、努力することで人間の価値を高めることができ、1人の人間として成長できるのではないのでしょうか。これからは、一人ひとりが自分の役割を自覚し、向上心を常に抱いて頑張っていってほしいです。



平成19年
(2007年)卒
安田 啓介

私は社会人になって5年経ちますが、明治大学レスリング部員として過ごした4年間はとても貴重な経験であり、社会人として今を生きる糧となっています。今日の私が在るのは、レスリング部での活動や生活があったからと言っても過言ではありません。レスリングに打ち込んだ日々や合宿所での生活が成り立っていたのも先輩方の御指導、同期や後輩の理解と協力があったからだと感じています。現在は生まれ故郷の富山に戻り日々忙しく社会生活を送っていますが、当時の楽しかったこと、苦しかったこと、なし得なかったこと、ご迷惑をおかけしたことなどが事あるごとに走馬灯のように思い出されます。



平成20年
(2008年)卒
安西 信昌
(コーチ)

競技生活の中で感じたのは「最初から強い人なんかいない。高い目標を持ち、挑戦する事が大事。」という事です。失敗しても原因を探して改善して行く事の繰り返しです。諦めたら、成長は止まります。常に考え、目標を細かく設定して取り組むことが大事です。また、明治大学の学生なのでもちろん勉強もしなければなりません。勉強が苦手な私の為に森陽保先輩発案のもと、試験の度に大学院生の方にマンツーマンで勉強の指導をしていただきました。この指導がなければ、卒業出来ていなかったかもしれません。今でもこの指導は続いていてスポーツと勉強の両立を求められている学生の大きな力となっています。私が競技に集中出来たのは多くの支えてくれる人がいたからです。多くの人々の力を借りてレスリングに打ち込めた事に感謝し、自分の学んだ事を次の世代にバトンタッチできるよう恩返しすると共に更なる精進をしていきたいと思っています。



挑戦(2003~2012)

各期代表からのメッセージ



平成21年
(2009年)卒
青木 太志

結果として四年間を乗り越えた時、他の学生には経験することのできない絆や思い出・宝物となりました。ましてや、私の高校時代の実力では、スポーツ・勉強ともに明治大学に入ることはできませんでした。それにも関わらず、四年生の時には主将まで務めさせて頂き、心から感謝致します。人との繋がりによって、人から教えられ、人から育てられてきたことを肌で学びました。レスリングの成績でいうと宮原君がインカレ優勝し、小生も大学選手権で2位入賞など、明治大学へスポーツによって貢献できたと思います。今度は我々の世代が明治大学レスリング部で経験・教えて頂いたことを活かし、次の世代の道標となるよう社会に貢献して参りたいと思います。今度は我々の世代が明治大学レスリング部で経験・教えて頂いたことを活かし、次の世代の道標となるよう社会に貢献して参りたいと思います。



平成21年
(2009年)卒
宮原 崇
(前コーチ)

レスリングの技術、歴史を知る事も重要であると思うが、それ以上に世界に目を向けて今のレスリングについて知ることが重要である。ルールに沿った戦術、それを実行できる体力と精神力、それらを鍛える練習方法を学生自ら考え、自ら動ける自立心、対応力が必要である。国際化が進み急速に変化する現代において、学生が社会に出た時に活躍する為にはそういった力を体育会レスリング部の活動を通して学生時代に養う事が必要である。私は明治大学を卒業してから、現在に至るまでコーチを務めさせて頂いた。今の私が思う「明治」それは、明治大学レスリング部が創部された時から続く歴史の積み重ねの中で、今の学生がOBに支えられ活動しており、現在の栄光は自分達で作上げたものでなく、明治の歴史のもとに生まれているということ。そして、偶然にも明治大学レスリング部という傘の下で出会った仲間と生活し、共に刺激し合いながら生まれた絆があるということ。それらは、この先も忘れることはない人生における貴重な財産です。



平成22年
(2010年)卒
渡邊 文博

レスリング部のことを考え、このチームを強くするためにはどうしたら良いのだろうかと考えていた1年間は、悩んでも考えても自ら率先してやはり練習するしかなかった。どのような世界においても努力無くして手に入れられる勝利はないと感じた。そして、その努力は、いつか必ず報われと自分自身に言い聞かせた。主将に任命された1年間自問自答の中で見つけた答えは、これであると私は思う。現在は、推薦枠が確保されたことから、部員が増え練習相手にも不自由なく練習できるということを理解して、「何事にも努力することを忘れない」で生活してほしいと後に続く部員達にこの言葉を贈りたい。



平成23年
(2011年)卒
加藤大志郎

4年生では主将に抜擢され明治大学体育会レスリング部という看板がいかに重いということを実感しました。その大きなプレッシャーに潰されそうになっているのを同期の2人によく助けてもらいました。団体戦でも頼りになる2人によく助けてもらいました。後輩には厳しくあたったりしたこともあり本当によくついてきて来てくれたと感動しております。また、リーグ戦での結果に満足いかず、酒を飲みながら皆で涙したことを今でも鮮明に覚えております。同じ目標を持って、それに向かって一所懸命に日々の練習を一緒にしてきた仲間を本当に誇りに思っております。そして私をご指導頂いた諸先輩方、こんな私についてきてくれた後輩達に出会えた事、さらに同じ時間を過ごせた事を私の人生の最大の誇りとしてこれからの人生を送っていきたくと思う。「我等明治大学体育会レスリング部永遠不滅成」

※ ご本人から寄せていただいた原稿から誌面の都合上、一部抜粋しております。



平成24年
(2012年)卒
徳山 利範

4年次のリーグ戦では私の掛け声の下にチームは団結し、満足できる結果ではありませんでしたが選手それぞれが練習で高めた実力を発揮する試合をしました。自らもチームの勝敗にかかわる場面で勝つことができ、主将としても選手としても大きな自信を持つことができました。

明治大学体育会レスリング部としての4年間を通して、届きこそしなかったものの目標を持って努力を重ねることが必ず結果に結びつくこと、それらの努力を重ねられる陰には必ず周囲の大きなサポートがあることを学ぶことができました。自分の選手・主将としての行いは正しいといえるものではありませんが、レスリング部で学んだことや様々な経験から社会の舞台で活躍する確かな自信を得ました。先生方、先輩、同期、後輩、またレスリング部を通じて出会った全ての方に感謝し、出会いと目標への努力を大切にして次のステージへ進みたいと思います。



平成25年
(2013年)卒
笠岡 涼太

今になり振り返ってみると寮での生活や勉強と体育会の活動の両立は私に素晴らしい経験させてくれたと思っています。寮生活では皆で食事をして、先輩、後輩の区別をつけた生活、部則、寮則といった規律を守ることを経験しました。これらは実家暮らしや一人暮らしでは決して経験できるものではなく、また、同じレスリング競技に取り組むもの同士の絆が深まる場でもあると思います。そして、勉強と練習で疲れていたとしても、寮の仲間と他愛ない話して盛り上がり、その場にいるもの達で一発ギャグを披露しあったりしてとても楽しくリフレッシュができる場所でもありました。私はこのような経験ができ、明治大学の体育会レスリング部に所属することができたことを誇りに思います。最後に先生方、先輩方、支えてくださった方々に感謝します。後輩の皆には今後とも古豪復活、それ以上の活躍を願い応援させて頂きたいと思っています。

特別寄稿



逆境を乗り越えて

黒澤 宏明 (平成11年卒)

私が大学に在学していた頃は、明治大学体育会レスリング部80年の中で最も低迷期を迎えていた時期だと思います。同期は自分を含め、森、細越、神村と一般生の渡辺の五名でした。入学当初は先輩方もたくさんいてそれなりに活気があったのですが、2年生になると上級生が抜け、新入生を含めたたった七名で迎えたリーグ戦では、9階級中5階級しか選手がいなく、一敗も許されない状況の中、1部Bリーグ最下位。そして、入れ替え戦でも苦しい状況の中善戦するも、レスリング始まって以来初の2部リーグ降格。どん底の中、この年から六大学リーグ戦が始まることになりました。ここから挽回していこうと思う矢先、主力二選手が怪我と病気のため、入院することになり、一般生の渡辺も減量してまで望んだ結果、法政、早稲田、慶応に続くまさかの4位。失意の中、それでも前を向いて行くしかないという暖房がこたつしかない合宿所で励ましあいました。

3年生になると、寒い冬の時期に種を植えたものが少しずつ芽を出し始めてきました。新入生を迎え、リーグ戦を2部リーグなど眼中にないと言わんばかりに圧勝し、入れ替え戦でも早稲田大学を撃破。その年の六大学リーグ戦では、危なげなく優勝。昨年の悪夢を振り払いました。そして、迎えた四年時のリーグ戦。2部から昇格してきたばかりの明大は初戦を昨年1部Bリーグ1位の青山学院との初戦をチームワークで勝利をもぎ取り、そのまま勢いに乗って1部Bリーグ2位という近年まれにみる好成績を収めました。2年前には2部リーグ降格という屈辱を味わいながらも、仲間を信じて歩んできた成果が実った瞬間でした。

学生のころに、居酒屋で出会った人が、「戦争をともに戦った『戦友』は友人と違って特別なものだ。君たちにはわからないだろうが」と言っていました。今ならその『戦友』の意味がわかる気がします。気の合う仲間が集まったのではなく、苦楽を共にした特別な存在、それがこの明大の仲間たちでした。これからの明治大学レスリング部での新たな1ページを楽しみにしています。

歴代部長・監督

歴代部長



西村文太郎

昭和9年～15年



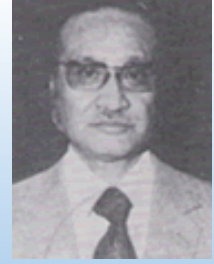
佐々木吉郎

昭和16年～18年
昭和21年～44年



皆河宗一

昭和45年～48年



水谷光壮

昭和49年～59年



笠原 茂

昭和60年～平成2年



山田庫平

平成3年～18年



千葉貴律

平成19年～現在

歴代監督



水谷光壮

昭和16年～18年
昭和21年～32年



笠原 茂

昭和33年～56年



田部井 茂

昭和57年～平成16年



山村 健

平成17年～20年



岩山喜代司

平成21年～現在

世界に羽ばたいた明治魂

明大レスリング部とオリンピック

大会名	氏名	スタイル	階級	成績
ベルリンオリンピック 昭和 11 年 (1936) 8 月	水谷 光三	フリー	フェザー級	6 位入賞
	吉岡 修市	グレコ	フェザー級	
ヘルシンキオリンピック 昭和 27 年 (1952) 7 月	富永 利三郎	フリー	フェザー級	5 位入賞
	霜鳥 武雄	フリー	ライト級	6 位入賞
メルボルンオリンピック 昭和 31 年 (1956) 11 月	飯塚 実	フリー	バンタム級	5 位入賞
	笠原 茂	フリー	ライト級	準優勝
ローマオリンピック 昭和 35 年 (1960) 8 月	阿部 一男	フリー	ライト級	
	青海 上	グレコ	ミドル級	
	石倉 俊太	グレコ	ライトヘビー級	
東京オリンピック 昭和 39 年 (1964) 10 月	渡辺 保夫	フリー	ウェルター級	5 位入賞
	斉藤 昌典	フリー	ヘビー級	
	風間 貞夫	グレコ	ウェルター級	
	杉山 恒治	グレコ	ヘビー級	
メキシコシティオリンピック 昭和 43 年 (1968) 10 月	宗村 宗二	グレコ	ライト級	優 勝
ミュンヘンオリンピック 昭和 47 年 (1972) 8 月	柳田 英明	フリー	57kg 級	優 勝
	和田 喜久夫	フリー	68kg 級	準優勝
モスクワオリンピック 昭和 55 年 (1980) 8 月	多賀 恒雄	フリー	62kg 級	日本不参加 幻の代表選手
	宮原 章	フリー	68kg 級	

※創部前の昭和 7 年 (1932) ロサンゼルスオリンピックに河野芳雄 (フリー・ウェルター級) が参加

ベルリンオリンピック (1936)



吉岡



水谷

ヘルシンキオリンピック (1952)



富永 霜鳥



富永 霜鳥

メルボルンオリンピック (1956)



笠原



飯塚

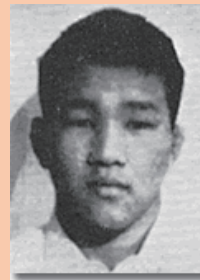


飯塚

世界に羽ばたいた明治魂

明大レスリング部とオリンピック

ローマオリンピック (1960)



阿部



青海



石倉

東京オリンピック (1964)



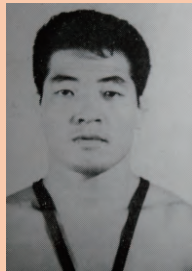
笠原コーチ



渡辺



斎藤



風間



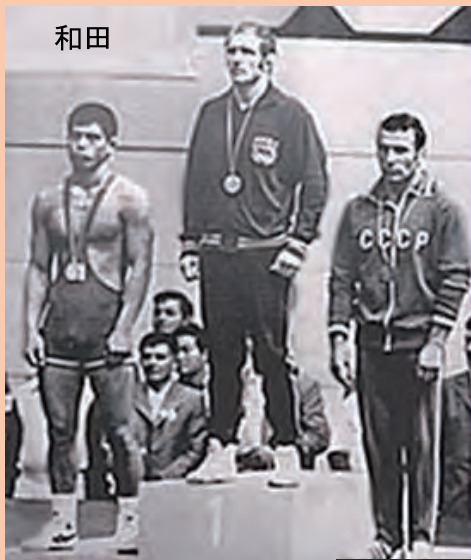
柳田

メキシコシティオリンピック (1968)



宗村

ミュンヘンオリンピック (1972)



和田



宗村

柳田



柳田

幻のモスクワ代表



宮原

多賀

現役紹介

宿願 古豪復活

主将挨拶



明治大学体育会
レスリング部
主将 坂本賢祐

先ず、明治大学体育会レスリング部創部80周年という歴史の礎を築かれました諸先輩や先人の方々に対し改めて敬意と感謝を申し上げます。

この80年という時代時代の節目では、語り尽くせないほどのご苦勞が有った事とお察しいたします。そして、この80周年という節目の年に、私が主将を務めさせていただくことを感謝しています。

今年の抱負と致しましては、「古豪復活」です。そして、多賀総監督が掲げる「剽悍なレスリング」。この二つを心に刻み、練習に励んでいきます。現役の部員から一人でも多くの世界大会で活躍するような選手が輩出できるよう、多賀総監督の御指導の下、これからも日々精進していきます。また、単にレスリングが強いだけでは無く、

大学生活を経て社会に通じる人間になるように日々の生活で鍛えていこうと考えています。今後ともなお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



◆ 80周年記念式典開催にあたって

明治大学レスリング部創部80周年記念式典実施にあたり、明大レスリング部OB会は80周年記念式典実行委員会を設置しました。選ばれた実行委員会の各委員は、OB会役員並びに大学関係のOBと共に、1年前から記念日の6月22日に向けて、企画・実施等の準備、運営を行ってきました。

各委員等には、仕事の合間を縫って毎月1回、開催日近くには数回にわたり実行委員会に出席していただきました。また、この記念式典に80周年史を作成し関係者に配布することを決め、中出広報委員長・森副委員長を中心に企画・編集等をしていただきました。

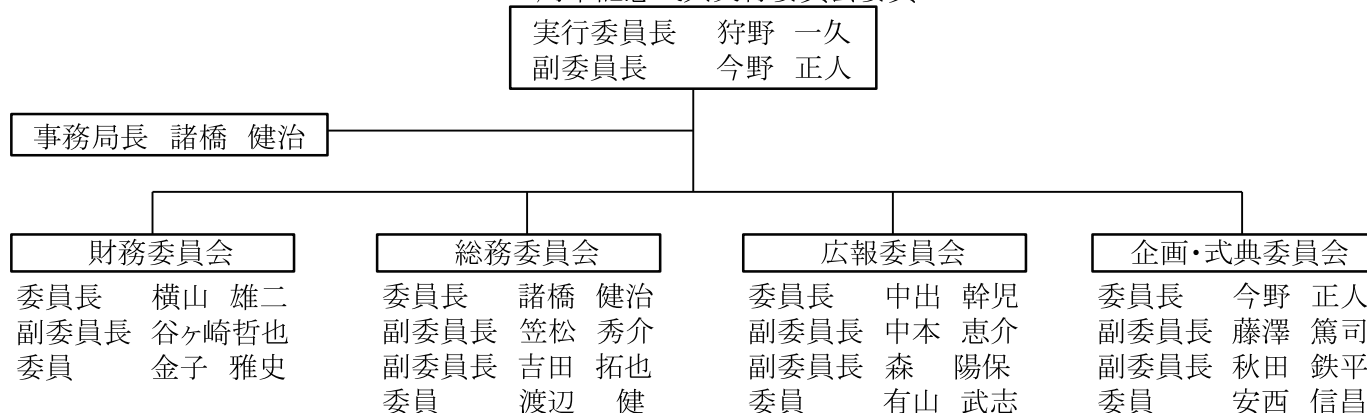
往年の強かった明治大学レスリング部は、黎明時代・復興時代・隆盛時代・奮闘時代に輝かしい実績を残してきました。その後、再興時代・新生時代を経て、レスリング部は、確実に挑戦時代（挑戦編として記念誌に掲載）の現在の後輩たちに引き継がれています。長い歴史の中、明治大学のレスリング部というマットの上で、たくさんのレスリング部員が汗と涙を流し、その時代時代に活躍した部員一人ひとりの人生が、連綿と刻み込まれて今日に至りました。記念誌もその時代に生きてきた自分史の一頁として捉えることができ、ここにこの80周年史を発行できることは大変意義深いものがあります。

最後にこの記念誌の場を借りまして、式典開催の準備等に頑張ってくださいましたメンバーを紹介し、各メンバーの皆様に改めて深く感謝申し上げます。

明治大学レスリング部80周年記念式典実行委員会
委員長 狩野 一久（昭和44年卒）

田村英司OB会長、浜本一哉OB会幹事長、多賀恒雄総監督、岩山喜代司監督、田部井茂元監督

80周年記念式典実行委員会委員



◆ 編集後記～創部80周年部史の作成にあたって

70周年部史は、浜本先輩をはじめ諸先輩方が3年の歳月をかけて、創部当時の黎明期からの貴重な写真を収集し、各年代のOB方々からの思い出を多数寄稿していただき、素晴らしい部史を作成していただきました。

80周年部史は、その後の10年間を焦点に作成させていただくことになりました。作成にあたっては、森広報副委員長（現明治大学レスリング部コーチ）が2年前から準備し、明大スポーツ新聞等から写真、戦績等資料を収集するとともに、各OBの方々から手持ちの写真を収集、各期の代表者から学生時代の思い出の寄稿等、相当の時間と労力をかけ、作成にこぎつけることができました。

80周年部史を皆様にご覧いただくにあたり、70周年部史に使用した記事、写真等を取り込み、その後の10年間を加え、ご覧の冊子として作成いたしました。80年の流れがわかりやすいように同じ形式で集合写真を主体に掲載いたしました。そして、詳細は引き続き、明治大学レスリング部ホームページに掲載させていただいております。

最後に、明大スポーツ新聞及び明治大学スポーツ振興事務室をはじめ、ご支援ご協力いただいた皆様に重ねて御礼申し上げます。

編集：明治大学レスリング部創部80周年記念式典 広報委員会



MEIJI
UNIVERSITY

明治大学校歌

児玉花外 作詞
山田耕筰 作曲

一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二、権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三、霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

発行：明治大学体育会レスリング部OB会

〒214-0034

神奈川県川崎市多摩区三田 2-5403-4

明治大学体育会レスリング部内

TEL/FAX：044-911-8193

ホームページ <http://www.meijiwrestling.com>